

民家の画家 向井潤吉 人物交流記 出品目録

2018年9月8日(土)－11月4日(日) 世田谷美術館

※各作品の番号は、作品の展示順とは異なる。原則として各章内で、制作年代順に掲載した。

※各作品については、原則として、作家名、タイトル、制作年、材質、サイズ/タテ×ヨコ(cm)、所蔵などの順に掲載した。

※彫刻作品のサイズ(cm)は、高さ、幅、奥行きの順に掲載した。

※向井潤吉の民家を題材とした作品などで〔 〕内の取材地名は、制作当時の作家による記録に基づく。したがって、現在の地名とは異なる場合がある。

※関係資料については、資料名称、制作者、著者、編者、資料内容、発行年、発行者、所蔵者などの情報を掲載した。

I. 1901-1936 「出生から渡欧まで」

1. 浅井忠 《葦屋根》、1887(明治20)年頃、油彩・カンヴァス、48.9×71.0、千葉県立美術館
2. 伊藤快彦 《厨の春》、1895(明治28)年頃、油彩・カンヴァス、32.0×43.0、京都国立近代美術館
3. 浅井忠 《漁婦》、1897(明治30)年、油彩・カンヴァス、56.0×82.0、千葉県立美術館
4. 都鳥英喜 《風景》(初夏)、1907(明治40)年、油彩・カンヴァス、79.0×59.5、府中市美術館
5. 鹿子木孟郎 《新夫人》、1909(明治42)年、油彩・カンヴァス、94.0×90.0、京都市美術館
6. 都鳥英喜 《諸寄村》、1913(大正2)年、油彩・カンヴァス、68.8×74.6、京都国立近代美術館
7. 須田国太郎 《八坂の塔》、1915(大正4)年、油彩・カンヴァス、45.5×33.6、京都市美術館
8. 安井曾太郎 《臥裸婦》、1916(大正5)年頃、油彩・カンヴァス、60.6×72.8、府中市美術館
9. 向井潤吉 《石膏》(デッサン)、1918(大正7)年、木炭・紙、45.3×29.4、世田谷美術館
10. 向井潤吉 《自画像》、1919(大正8)年、油彩・カンヴァス、45.5×33.5、世田谷美術館
11. 向井潤吉 《習作(婦人像)》、1919(大正8)年、油彩・カンヴァス、45.5×38.0、世田谷美術館
12. 向井潤吉 《習作(女性像)》、1920(大正9)年頃、油彩・カンヴァス、45.6×33.8、世田谷美術館
13. 向井潤吉 《舞妓の顔》、1920(大正9)年、油彩・カンヴァス、41.0×32.0、世田谷美術館
14. 向井潤吉 《K氏の像》、1920(大正9)年、油彩・カンヴァス、65.0×52.8、京都国立近代美術館
15. 都鳥英喜 《鎧村》、1923(大正12)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、佐倉市立美術館
16. 虫明柏太 《インコーノ秋》、1924(大正13)年、油彩・カンヴァス、60.7×45.6、世田谷美術館
17. 向井潤吉 《畑の中の家(明日香の家)》〔奈良県〕、1925(大正14)年、油彩・カンヴァス、32.2×40.8、世田谷美術館
18. 虫明柏太 《上馬馬引沢付近》、1926(大正15)年、油彩・カンヴァス、53.2×72.8、世田谷美術館
19. 三輪四郎 《不詳》、1926(大正15)年、鉛筆・紙、47.5×31.2、世田谷美術館
20. 黒田重太郎 《湖畔の朝》、1927(昭和2)年、油彩・カンヴァス、90.0×108.0、日本芸術院
21. 向井潤吉 《模写／化粧する若き女(カラーの模写)》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、34.8×24.8、世田谷美術館
22. 向井潤吉 《模写／泉(アングルの模写)》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、165.1×82.5、世田谷美術館
23. 向井潤吉 《横たわる裸婦》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、59.5×89.8、世田谷美術館
24. 向井潤吉 《街の力士》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、53.2×45.5、世田谷美術館
25. 向井潤吉 《司厨夫》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、65.3×50.0、世田谷美術館
26. 向井潤吉 《夜の街》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、80.0×54.1、世田谷美術館
27. 向井潤吉 《婦人像(若き女の顔)》、1928(昭和3)年、油彩・カンヴァス、35.2×27.3、世田谷美術館
28. 向井潤吉 《セーヌ風景(巴里風景)》、1928(昭和3)年頃、油彩・板、19.0×23.5、世田谷美術館
29. 向井潤吉 《壺に花》、1928(昭和3)年頃、油彩・板、24.5×33.0、世田谷美術館
30. 小堀四郎 《模写／洗濯女(ドーミエの模写)》、1929(昭和4)年、油彩・板、51.5×35.5、豊田市美術館
31. 向井潤吉 《模写／ばらの花をもつ女(ルノワールの模写)》、1929(昭和4)年、油彩・カンヴァス、65.0×54.0、世田谷美術館
32. 向井潤吉 《模写／エレーヌ・フルマンと二児(ルーベンスの模写)》、1929(昭和4)年、油彩・板、116.2×89.0、世田谷美術館
33. 向井潤吉 《模写／裁縫する若き女(ミレーの模写)》、1929(昭和4)年、油彩・カンヴァス、33.0×24.4、世田谷美術館
34. 向井潤吉 《模写／老人の頭(デューラーの模写)》、1929(昭和4)年、油彩・カンヴァス、40.9×32.8、世田谷美術館
35. 小出権重 《六月の郊外風景》、1930(昭和5)年、油彩・カンヴァス、72.5×90.0、高島屋史料館
36. 向井潤吉 《争へる鹿》、1934(昭和9)年、油彩・カンヴァス、153.9×205.4、世田谷美術館
37. 小磯良平 《石切場》、1936(昭和11)年、油彩・カンヴァス、41.1×72.8、神戸市立小磯記念美術館

II. 1937-1959 「戦争の時代、そして民家との出会い」

38. 向井潤吉 《凍日》〔北海道常呂郡置戸村〕、1937(昭和12)年、油彩・カンヴァス、118.0×146.0、世田谷美術館
39. 向井潤吉 《影》(中国・蘇州上空にて)、1938(昭和13)年、油彩・カンヴァス、84.8×90.8、福富太郎コレクション資料室
40. 向井潤吉 《ピナロンの宿舎 原稿を書く尾崎睡軒(士郎)》／フィリピンへの従軍中の作品、1941(昭和16)年、インク・紙、22.2×28.5、個人蔵
41. 向井潤吉 《坑底の人々》、1942(昭和17)年、油彩・カンヴァス、130.8×162.0、公益財団法人和敬塾
42. 向井潤吉 《献木伐採》、1943(昭和18)年、油彩・カンヴァス、116.0×90.8、世田谷美術館
43. 向井潤吉 《ロクタク湖白雨(インパール前線)》、1944(昭和19)年、油彩・カンヴァス、91.0×116.5、北九州市立文学館
44. 向井潤吉 《雨》〔新潟県北魚沼郡川口村〕、1945(昭和20)年、油彩・カンヴァス、38.0×45.5、個人蔵
45. 向井潤吉 《春遠き町》、制作年代不詳、油彩・カンヴァス、31.8×41.0、世田谷美術館
46. 向井潤吉 《まひる》、1946(昭和21)年、油彩・カンヴァス、148.2×202.6、福岡県立美術館
47. 向井潤吉 《漂人》、1946(昭和21)年、油彩・カンヴァス、84.7×42.3、世田谷美術館

48. 向井潤吉 《ある司厨長の像》、1949(昭和24)年、油彩・カンヴァス、91.0×73.0、個人蔵/世田谷美術館寄託

49. 向井潤吉 《練場の女》[北海道留萌市]、1951(昭和26)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、福富太郎コレクション資料室

50. 向井潤吉 《春泥の道》[北海道留萌市]、1951(昭和26)年、油彩・カンヴァス、52.0×66.0、世田谷美術館

51. 向井潤吉 《生活の河》[千葉県浦安市]、1954(昭和29)年頃、油彩・カンヴァス、50.6×61.0、世田谷美術館

III. 1960-1989 「民家遍旅」

59. 向井潤吉 《プロバンの秋》(パリ郊外)、1959(昭和34)年-1960年、油彩・カンヴァス、38.2×54.8、世田谷美術館

60. 向井潤吉 《パリの風景》、1959(昭和34)年-1960年、油彩・カンヴァス、54.5×46.2、世田谷美術館

61. 向井潤吉 《トレド新春》、1960(昭和35)年、油彩・カンヴァス、146.0×97.5、世田谷美術館

62. 向井潤吉 《山家雪意》[宮城県刈田郡七ヶ宿町関字横川]、1961(昭和36)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.5、世田谷美術館

63. 向井潤吉 《北端の村》[青森県下北郡東通村尻屋、尻屋岬入口]、1962(昭和37)年、油彩・カンヴァス、50.3×60.5、世田谷美術館

64. 向井潤吉 《山間草炎》[山形県東田川郡朝日村田麦俣]、1962(昭和37)年、油彩・カンヴァス、45.7×53.2、世田谷美術館

65. 向井潤吉 《マタギの家》[秋田県北秋田郡阿仁町根子]、1963(昭和38)年、油彩・カンヴァス、91.1×116.5、世田谷美術館

66. 向井潤吉 《層雲》[青森県北津軽郡市浦村十三]、1964(昭和39)年、油彩・カンヴァス、91.2×116.7、世田谷美術館

67. 向井潤吉 《山腹の家》[東京都西多摩郡檜原村数馬]、1964(昭和39)年、油彩・カンヴァス、53.0×45.5、世田谷美術館

68. 向井潤吉 《御代宿初秋》[福島県郡山市湖南町三代]、1965(昭和40)年、油彩・カンヴァス、45.7×60.6、世田谷美術館

69. 向井潤吉 《最上川早春》[山形県北村山郡大石田町今宿]、1966(昭和41)年、油彩・カンヴァス、45.2×60.5、世田谷美術館

70. 向井潤吉 《聚落》[山形県東田川郡朝日村田麦俣]、1966(昭和41)年、油彩・カンヴァス、91.0×116.5、世田谷美術館

71. 向井潤吉 《大山詣での道》[神奈川県伊勢原市子易]、1966(昭和41)年、油彩・カンヴァス、45.4×60.5、世田谷美術館

72. 向井潤吉 《大原冬に入る》[京都府京都市左京区大原]、1966(昭和41)年、油彩・カンヴァス、45.4×53.2、世田谷美術館

52. 伊谷賢蔵 《石榴と栗の静物》、1968(昭和43)年、油彩・カンヴァス、38.0×45.5、世田谷美術館

53. 田辺三重松 《石狩川》、制作年代不詳、水彩・紙、30.2×37.8、世田谷美術館

54. 伊谷賢蔵 《裸婦素描》、制作年代不詳、鉛筆・紙、47.1×31.3、世田谷美術館

55. 小出卓二 《大阪湾》、制作年代不詳、油彩・カンヴァス、53.3×45.5、世田谷美術館

56. 古家新 《日の出》、制作年代不詳、油彩・カンヴァス、32.0×41.0、世田谷美術館

73. 向井潤吉 《草原六月》[北海道厚田郡厚田村聚富村]、1967(昭和42)年、油彩・カンヴァス、80.4×100.0、世田谷美術館

74. 向井潤吉 《海の見える梅林》[和歌山県日高郡南部町]、1968(昭和43)年、油彩・カンヴァス、45.7×53.2、世田谷美術館

75. 向井潤吉 《ふもとの老樹》[山梨県北巨摩郡小淵沢町]、1969(昭和44)年、油彩・カンヴァス、50.2×60.5、世田谷美術館

76. 向井潤吉 《岳麓好日》[長野県北安曇郡白馬村塩島]、1969(昭和44)年、油彩・カンヴァス、72.8×91.2、世田谷美術館

77. 向井潤吉 《秋風の中の水車》[岩手県江刺市中沢]、1969(昭和44)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

78. 向井潤吉 《奥丹波の秋》[京都府船井郡丹波町]、1969(昭和44)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

79. 向井潤吉 《晩秋》[京都府船井郡丹波町]、1969(昭和44)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.1、世田谷美術館

80. 向井潤吉 《比良春雪》[京都府京都市左京区大原]、1970(昭和45)年、油彩・カンヴァス、45.6×52.8、世田谷美術館

81. 向井潤吉 《甘樫丘遠望—橋寺境内より》[奈良県高市郡明日香村大字橋]、1970(昭和45)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.1、世田谷美術館

82. 向井潤吉 《六月の田園》[岩手県岩手郡滝沢村]、1971(昭和46)年、油彩・カンヴァス、80.5×100.0、世田谷美術館

83. 向井潤吉 《古壁の秋》[奈良県奈良市高畑町福井、奈良新薬師寺近く]、1971(昭和46)年、油彩・カンヴァス、41.0×53.3、世田谷美術館

84. 向井潤吉 《山雨来る部落》[富山県黒部市別所]、1973(昭和48)年、油彩・カンヴァス、53.1×65.2、世田谷美術館

85. 向井潤吉 《武蔵野の丘径》[埼玉県比企郡嵐山町]、1974(昭和49)年、油彩・カンヴァス、50.0×60.6、世田谷美術館

57. 小出卓二 《魼》、制作年代不詳、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

58. 向井潤吉 《渡月橋橋畔にて》[京都府京都市右京区嵯峨]、1957(昭和32)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.3、世田谷美術館

86. 向井潤吉 《微雨》[長野県木曾郡南木曾町妻籠]、1974(昭和49)年、油彩・カンヴァス、100.4×80.5、世田谷美術館

87. 向井潤吉 《山居立春》[神奈川県足柄上郡山北町世附]、1975(昭和50)年、油彩・カンヴァス、91.1×116.8、世田谷美術館

88. 向井潤吉 《北国街道白雨》[新潟県西蒲原郡巻町稲島]、1975(昭和50)年、油彩・カンヴァス、50.3×60.8、世田谷美術館

89. 向井潤吉 《奥多摩の秋》[東京都西多摩郡奥多摩町]、1975(昭和50)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

90. 向井潤吉 《春映》[岩手県上閉伊郡宮守村]、1976(昭和51)年、油彩・カンヴァス、80.6×116.8、世田谷美術館

91. 向井潤吉 《爽緑の丘》[東京都青梅市栗平]、1976(昭和51)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

92. 向井潤吉 《遠野の春》[岩手県遠野市砂子沢]、1977(昭和52)年、油彩・カンヴァス、45.5×53.0、世田谷美術館

93. 向井潤吉 《雨後千曲川》[長野県下水内郡豊田村豊津碓]、1977(昭和52)年、油彩・カンヴァス、80.4×100.0、世田谷美術館

94. 向井潤吉 《峠の下の村》[岡山県苫田郡上斎原村天王]、1978(昭和53)年、油彩・カンヴァス、91.1×116.6、世田谷美術館

95. 向井潤吉 《大原新雪》[京都府京都市左京区大原]、1981(昭和56)年、油彩・カンヴァス、45.6×53.0、世田谷美術館

96. 向井潤吉 《早春の水路》[埼玉県川越市下新河岸]、1982(昭和57)年、油彩・カンヴァス、41.0×53.0、世田谷美術館

97. 向井潤吉 《春塘》[埼玉県川越市郊外]、1984(昭和59)年、油彩・カンヴァス、91.0×116.7、世田谷美術館

98. 向井潤吉 《遅れる春の丘より》[長野県北安曇郡白馬村北城]、1986(昭和61)年、油彩・カンヴァス、89.5×130.3、世田谷美術館

99. 向井潤吉 《春叢》〔埼玉県東松山市神戸〕、1988(昭和63)年、油彩・カンヴァス、80.4×100.0、世田谷美術館

100. 向井潤吉 《湖東の家》〔滋賀県愛知郡湖東町〕、1989(平成元)年、油彩・カンヴァス、45.7×52.9、世田谷美術館

IV. 世田谷の地で巡り会った人々

101. 白と黒の会 《色紙貼交屏風》(二曲半双)、1951(昭和26)年、紙本・着彩、168.8×166.6、世田谷八幡宮

102. 白と黒の会 《白と黒の会》(寄せ書き)、1951(昭和26)年、紙本・着彩、138.1×33.2、世田谷八幡宮

103. 白と黒の会 《白と黒の会》(寄せ書き)、1951(昭和26)年、紙本・着彩、軸装、138.5×34.0、美登利寿司／世田谷美術館寄託

104. 小川千壘 《日比谷公園風景》、1911(明治44)年、水彩・紙、18.0×24.8、世田谷美術館

105. 小川千壘 《坂道と老人》、1913(大正2)年、水彩・鉛筆・紙、31.8×23.8、世田谷美術館

106. 難波田龍起 《街》、1951(昭和26)年、油彩・カンヴァス、80.0×100.0、世田谷美術館

107. 森芳雄 《人々》、1951(昭和26)年、油彩・カンヴァス、149.0×165.5、世田谷美術館

108. 中谷泰《母と子》、1951(昭和26)年、油彩・カンヴァス、90.9×60.6、世田谷美術館

109. 牛島憲之 《水辺(水門)》、1952(昭和27)年、油彩・カンヴァス、72.7×90.9、世田谷美術館

110. 横尾深林人 《山中唔啞響圖》、1952(昭和27)年、紙本・着彩、282.5×124.7、世田谷美術館

111. 松本弘二 《濤》、1953(昭和28)年、油彩・カンヴァス、91.0×73.0、世田谷美術館

112. 須田寿 《耕土》、1978(昭和53)年、油彩・カンヴァス、112.0×145.5、世田谷美術館

113. 福田豊四郎 《水辺》、1957(昭和32)年、紙本・着彩、101.5×80.5、世田谷美術館

114. 佐藤忠良 《魚商の女》、1960(昭和35)年、ブロンズ、29.0×17.0×27.0、世田谷美術館

115. 向井良吉 《蟻の城》、1960(昭和35)年、白銅、55.0×26.0×28.0、世田谷美術館

116. 柳原義達 《犬の唄》、1961(昭和36)年、ブロンズ、159.1×54.5×60.0、世田谷美術館

117. 本郷新 《鶏を抱く少女》、1962(昭和37)年、ブロンズ、103.4×34.5×37.5、世田谷美術館

118. 佐藤忠良 《二歳(小)》、1972(昭和47)年、ブロンズ、32.0×9.0×7.5、世田谷美術館

119. 舟越保武 《その人》、1995(平成7)年、ブロンズ、37.0×26.5×26.0、世田谷美術館

向井潤吉の素描、版画、新聞小説挿絵原画

120. 向井潤吉 《室生寺の村》〔奈良県宇陀郡室生村〕、1961(昭和36)年、水彩・鉛筆・紙、41.0×31.2、世田谷美術館

121. 向井潤吉 《牛と茶畑》〔埼玉県入間郡茂呂山町川角〕、1962(昭和37)年、水彩・鉛筆・紙、34.7×44.1、世田谷美術館

122. 向井潤吉 《半鐘のある村》〔静岡県賀茂郡南伊豆大瀬〕、1962(昭和37)年、水彩・鉛筆・紙、34.7×43.9、世田谷美術館

123. 向井潤吉 《榛名にて》〔群馬県群馬郡榛名町〕、1962(昭和37)年、水彩・鉛筆・紙、34.3×44.1、世田谷美術館

124. 向井潤吉 《篠山の武家屋敷》〔兵庫県多紀郡篠山町〕、1963(昭和38)年、水彩・鉛筆・紙、31.6×40.6、世田谷美術館

125. 向井潤吉 《阿仁合の旅舎》〔秋田県北秋田郡阿仁町〕、1963(昭和38)年頃、水彩・鉛筆・紙、31.3×40.8、世田谷美術館

126. 向井潤吉 《北辺漁家(津軽小泊村)》〔青森県北津軽郡小泊村〕、1964(昭和39)年、水彩・鉛筆・紙、31.5×40.8、世田谷美術館

127. 向井潤吉 《出雲今市》〔島根県出雲市今市町〕、1965(昭和40)年、水彩・鉛筆・紙、35.2×44.3、世田谷美術館

128. 向井潤吉 《崖の村》〔三重県松坂市飯南町深野〕、制作年代不詳、水彩・鉛筆・紙、34.8×44.0、世田谷美術館

129. 向井潤吉 《飯能中山宿》〔埼玉県飯能市中山〕、1966(昭和41)年、水彩・鉛筆・紙、40.0×30.6、世田谷美術館

130. 向井潤吉 《岳麓秋色》〔山梨県南都留郡忍野村〕、1966(昭和41)年、水彩・鉛筆・紙、35.1×44.4、世田谷美術館

131. 向井潤吉 《森蔭の家》〔茨城県逆井にて〕〔茨城県猿島郡猿島町逆井〕、1966(昭和41)年、水彩・鉛筆・紙、34.9×44.2、世田谷美術館

132. 向井潤吉 《鶴の来る村》〔山口県熊毛郡熊毛町八代〕、1967(昭和42)年、水彩・鉛筆・紙、35.2×44.2、世田谷美術館

133. 向井潤吉 《花脊の家》〔京都府京都市左京区花脊〕、1967(昭和42)年頃、水彩・鉛筆・紙、35.0×44.0、世田谷美術館

134. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 一月 富士新春」〔静岡県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

135. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 二月 武蔵野早春」〔東京都〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

136. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 三月 オリーブ樹と家」〔香川県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

137. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 四月 杏花村」〔長野県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

138. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 五月 山峡晩春」〔岐阜県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

139. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 六月 麦秋」〔佐賀県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

140. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 七月 草炎の道」〔山形県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

141. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 八月 雨の街道」〔宮城県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

142. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 九月 林檎樹と曲が家」〔岩手県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

143. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 十月 湖西の家」〔滋賀県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

144. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 十一月 新冬」〔奈良県〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

145. 向井潤吉 「民家十二ヶ月集 十二月 静閑」〔京都府〕、1964(昭和39)年、木版・紙、27.2×40.5、世田谷美術館

146. 向井潤吉 『をがむ』挿絵原画 第36回／『東京新聞』連載小説、1945(昭和20)年、鉛筆・インク・紙、22.9×15.3、世田谷美術館

147. 向井潤吉 『をがむ』挿絵原画 第37回／『東京新聞』連載小説、1945(昭和20)年、鉛筆・インク・紙、15.3×22.9、世田谷美術館

148. 向井潤吉 『をがむ』挿絵原画 第38回／『東京新聞』連載小説、1945(昭和20)年、鉛筆・インク・紙、22.9×15.3、世田谷美術館

149. 向井潤吉 『体の中を風が吹く』挿絵原画 第27回／『東京新聞』連載小説、1956(昭和31)年、鉛筆・墨・紙、19.8×27.4、世田谷美術館

150. 向井潤吉 『体の中を風が吹く』挿絵原画 第45回／『東京新聞』連載小説、1956(昭和31)年、鉛筆・墨・紙、17.7×27.5、世田谷美術館

151. 向井潤吉 『体の中を風が吹く』挿絵原画 第116回／『東京新聞』連載小説、1957(昭和32)年、鉛筆・墨・紙、19.8×27.5、世田谷美術館

関係資料

自著など

- 『北支風土記』、著：向井潤吉、1939(昭和14)年、大東出版社
- 『大東亜戦争 陸軍報道班員手記 バタアン コレヒドール攻略戦』、編：文化奉公会、「サマルの塔」文・挿画：向井潤吉、1942(昭和17)年、大日本雄弁会講談社
- 大東亜戦争陸軍従軍画家『南方画信』第二輯、編：陸軍美術協会、《ブリット高地より見たるバタアン総攻撃の第一日》向井潤吉、「出発・上陸よりマニラまで」文・挿画：向井潤吉、1942(昭和17)年、陸軍美術協会出版部
- 比島従軍記 陣中新聞『南十字星下』、著：向井潤吉、1942(昭和17)年、陸軍美術協会出版部

書籍の挿画、表紙原画など

- 『婦人画報』第315号、表紙原画：《水の辺り》向井潤吉、1931(昭和6)年、東京社
- 『彼女の履歴』、著：林芙美子、装幀：向井潤吉、1931(昭和6)年、改造社
- 『話』第5巻第3号、表紙原画：向井潤吉、1937(昭和12)年、文芸春秋社
- 『虚構の彷徨 ダス・ゲマイネ』、著：太宰治、装幀：向井潤吉、1937(昭和12)年、新潮社
- 『黄塵』、著：上田廣、挿画：向井潤吉、1938(昭和13)年、改造社
- 国民雑誌『大陸』第1巻第7号、表紙原画：向井潤吉、1938(昭和13)年、改造社
- 『旅』第17巻第4号、頌春賦「産寧坂の春」文・挿画：向井潤吉、1940(昭和15)年、日本旅行倶楽部
- 『街の哲学』、著：新居格、表紙原画：向井潤吉、1941(昭和16)年、青年書房
- 『戦影日記』、著：尾崎士郎、装幀：向井潤吉、1943(昭和18)年、小学館
- 『戦練記 神武の兵』、著：北村一夫、装幀・挿画：向井潤吉、1943(昭和18)年、教学社
- 『絵巻 アツ島血戦』、陸軍省報道部監修、《上陸の朝》文・画：向井潤吉、1944(昭和19)年、陸軍美術協会出版部

152. 向井潤吉 『悪名』挿絵原画 第60回／『東京新聞』連載小説、1961(昭和36)年、鉛筆・墨・紙、24.1×27.2、世田谷美術館

153. 向井潤吉 『悪名』挿絵原画 第63回／『東京新聞』連載小説、1961(昭和36)年、鉛筆・墨・紙、24.1×27.2、世田谷美術館

154. 向井潤吉 『悪名』挿絵原画 第66回／『東京新聞』連載小説、1961(昭和36)年、鉛筆・墨・紙、27.2×24.1、世田谷美術館

5. 比島派遣軍陣中新聞『南十字星』第一輯、編：比島派遣軍宣伝班、表紙原画：向井潤吉 挿画：《サンフェルナンドの寺院》向井潤吉 「バタアン、コレヒドール遂に落つ」文：向井潤吉、1942(昭和17)年、比島派遣軍宣伝班

6. 『大東亜戦争 陸軍報道班員手記』、編：文化奉公会、口絵：《比島サンフェルナンドの伽藍》向井潤吉、「マニラの陋巷」文・挿画：向井潤吉、1943(昭和18)年、大日本雄弁会講談社

7. 『大東亜戦争絵巻 フィリッピンへの戦ひ』監修：大本営陸軍報道部、表紙原画：《爆撃機のコ島猛爆》向井潤吉 「砲兵コレヒドール猛攻」文・挿画：向井潤吉、1944(昭和19)年、日本出版配給株式会社

24. 『月刊西日本』創刊号、「戦争と美術」文：向井潤吉、1944(昭和19)年、西日本新聞社

25. 『週刊朝日』第47巻第28・29号、表紙原画：《菜園の朝》向井潤吉、1945(昭和20)年、朝日新聞社

26. 『小国民の友』第21巻第12号、「ビルマのお話」文・挿画：向井潤吉、1945(昭和20)年、小学館

27. 『主婦之友』第29巻第8号、表紙原画：《開墾》向井潤吉、1945(昭和20)年、主婦之友社

28. 『感想私録』、著：シャルル＝ピエール・ボードレー 訳：堀口大學、装幀：向井潤吉、1946(昭和21)年、小学館

29. 季刊美術雑誌『ぱれっと』創刊号、編：行動美術協会、目次絵：向井潤吉、「酒ざんげ」文・挿画：向井潤吉、1946(昭和21)年、湯川弘文社

30. 『北京恋ひ』、著：棟田博、装幀：向井潤吉、1947(昭和22)年、世間書房

31. 『主婦之友』第31巻第10号、著：岡田禎子「キリスト物語」(8)、挿画：向井潤吉、1947(昭和22)年、主婦之友社

32. 『主婦之友』第31巻第12号、著：岡田禎子「キリスト物語」(10) 挿画：向井潤吉、1947(昭和22)年、主婦之友社

155. 向井潤吉 『悪名』挿絵原画 第69回／『東京新聞』連載小説、1961(昭和36)年、鉛筆・墨・紙、27.2×24.1、世田谷美術館

8. 『光』第2巻第1号、「日本美」文・画：向井潤吉、1946(昭和21)年、光文社

9. 『民家と風土』、著：向井潤吉、1957(昭和32)年、美術出版社

10. 『油彩 一技法と鑑賞—』、著：向井潤吉、1958(昭和33)年、東峰書院

11. 『現代作家デッサン』、著：向井潤吉、1959(昭和34)年、芸艸堂

12. 『素描・石彫聖人像』、著：向井潤吉、1960(昭和35)年、東峰書院

33. 『婦人朝日』第2巻第6号、「街に見る髪かたち」画：向井潤吉、1947(昭和22)年、朝日新聞東京本社

34. 『週刊朝日』第51巻第25号、表紙原画：向井潤吉、1947(昭和22)年、朝日新聞社

35. 『真実記』、著：芹澤光治良、装幀：向井潤吉、1947(昭和22)年、高島屋出版部

36. 『思春期』、著：火野葦平、見返し原画：向井潤吉、1948(昭和23)年、文潮社

37. 『トム・ソウヤーの冒険』、原作：マーク・トウェイン 著：佐々木邦、表紙原画・挿画：向井潤吉、1948(昭和23)年、大日本雄弁会講談社

38. 『主婦之友』第32巻第3号、著：岡田禎子「キリスト物語」(13)、挿画：向井潤吉、1948(昭和23)年、主婦之友社

39. 『主婦之友』第32巻第8号、著：岡田禎子「キリスト物語」(18)、挿画：向井潤吉、1948(昭和23)年、主婦之友社

40. 『鐘の鳴る丘』トーキーシナリオ、原作：菊田一夫、脚色：斉藤良輔、表紙原画：向井潤吉、1948(昭和23)年、東京書肆

41. 『文学会議』秋季創作特号 第5号、装幀・見返し原画：向井潤吉、1948(昭和23)年、大日本雄弁会講談社

42. 『雑草の萌える路』、著：菊田一夫、装幀・挿画：向井潤吉、1948(昭和23)年、季節社

43. 『ミサプウルへの道』、著：ブラ・サラサス、訳：長沼弘毅、装幀：向井潤吉、1950(昭和25)年、共立書房

44. 『ノモンハン』、著：辻政信、装幀・扉原画：向井潤吉、1950(昭和25)年、垂東書房

45. 『中学コース 一年』第4巻第5号、著：坪内士行「真夏の夜の夢」、挿画：向井潤吉、1950(昭和25)年、学習研究社

46. 『草土記 一額縁商の生活記録』、著：水谷啓二、装幀：向井潤吉、1951(昭和26)年、大日本雄弁会講談社

47. 『大地 第一部 大地』、著：パール・バック、訳：新居格、装幀：向井潤吉、1951(昭和26)年、共和出版社

48. 『大地 第二部 息子たち』、著：パール・バック、訳：新居格、装幀：向井潤吉、1951(昭和26)年、共和出版社

49. 『週刊朝日』第57巻第17号、表紙原画：《杏花村》向井潤吉 表紙コンクール参加作品、1952(昭和27)年、朝日新聞社

50. 『週刊サンケイ』第1巻第25号、表紙原画：《浴衣女》向井潤吉、1952(昭和27)年、産業経済新聞社

51. 『サンデー毎日』第1707号、表紙原画：《洞海湾展望》向井潤吉、1952(昭和27)年、毎日新聞社

52. 『大地 第三部 分裂せる家』、著：パール・バック、訳：新居格、装幀：向井潤吉、1952(昭和27)年、共和出版社

53. 『世界少年少女文学全集』5、「宝島」著：ロバート・ルイス・スティーヴンスン、訳：西村孝次、「ジャングル・ブック」著：ジョゼフ・ラドヤード・キップリング、訳：西村孝次、挿画：向井潤吉、1953(昭和28)年、創元社

54. 『週刊朝日』第59巻第11号、表紙原画：《水路 一琵琶湖東岸》向井潤吉 表紙コンクール参加作品、1954(昭和29)年、朝日新聞社

55. 『花と龍』上巻、著：火野葦平、カバー原画：向井潤吉、1954(昭和29)年、新潮社

56. 『温泉』第23巻第6号、「南紀白浜廿四時間記」、文・挿画：向井潤吉、1955(昭和30)年、日本温泉協会

葉書、書簡

81. 軍事郵便 郵便はがき《宛平縣城南門》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃

82. 郵便はがき《秋晴れの社頭》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃、陸軍美術協会

83. 軍事郵便 郵便はがき《張家口 崖上のトーチカ》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃

84. 郵便はがき《アリューションの護り鉄壁》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃、陸軍美術協会

85. 軍事郵便 郵便はがき《進撃スル野砲隊》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃

57. 『武器よさらば』、著：アーネスト・ミラー・ヘミングウェイ、訳：大久保康雄、カバー原画：向井潤吉、1955(昭和30)年、新潮社

58. 『世界少年少女文学全集』7、著：ハリエット・エリザベス・ピーチャー・ストウ、訳：田中西二郎「アンクル・トムス・ケビン」、絵・挿画：向井潤吉、著：ワシントン・アーヴィング、訳：松村達雄「リップ・ヴァン・ウインクル」挿画：向井潤吉、1955(昭和30)年、創元社

59. 『入社試験』、著：上林暁、カバー原画：向井潤吉、1955(昭和30)年、河出書房

60. 『あそび』第8集第1巻、《ひつじのいるけしき》画：向井潤吉、1955(昭和30)年、静岡福祉事業協会

61. 『花と龍』下巻、著：火野葦平、カバー原画：向井潤吉、1955(昭和30)年、新潮社

62. 臨時増刊『文藝 芥川龍之介読本』、表紙原画：向井潤吉、1955(昭和30)年、河出書房

63. 『世界少年少女文学全集』48、著：高橋健二「ヒマラヤのかなたに」、挿画：向井潤吉、著：中野好夫「アラビアのロレンス」、挿画：向井潤吉、1956(昭和31)年、創元社

64. 『梅里先生行状記』、著：吉川英治、装幀：向井潤吉、1956(昭和31)年、六興・出版部

65. 『体の中を風が吹く』、著：佐多稲子、装幀・挿画：向井潤吉、1957(昭和32)年、大日本雄弁会講談社

66. 『週刊朝日』第62巻第7号、表紙原画：《田中絹代》向井潤吉、表紙コンクール参加作、1957(昭和32)年、朝日新聞社

67. 岩波少年文庫『エイブ・リンカーン』、著：吉野源三郎、挿画：向井潤吉、1958(昭和33)年、岩波書店

68. すまいとくらしの雑誌『朗』第25号、名士のすまい拝見「洋画家 向井潤吉氏邸」、1958(昭和33)年、日本電建株式会社出版部

69. 『うかれバイオリン』講談社の絵本ゴールド版22第2巻第22号、著：網野菊、装幀・挿画：向井潤吉、1959(昭和34)年、講談社

70. 『他人の重み』、著：ボリス・シモン、訳：倉田清、カバー・表紙原画：向井潤吉、1960(昭和35)年、東峰書院

86. 軍事郵便 郵便はがき《北満待春》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃

87. 軍事郵便 郵便はがき《姑蘇雨情》、原画：向井潤吉、1937(昭和12)年頃

88. 佐多稲子／向井潤吉宛 書簡、1967(昭和42)年、個人蔵

89. 小糸源太郎／向井潤吉宛 礼状、1969(昭和44)年、個人蔵

90. 佐多稲子／向井潤吉宛 年賀状、1970(昭和45)年、個人蔵

71. 『悪名』、著：今東光、装幀：向井潤吉、1961(昭和36)年、新潮社

72. 『世界少年少女文学全集』6、「アンクル・トムス・ケビン」著：ハリエット・エリザベス・ピーチャー・ストウ、訳：田中西二郎、口絵・挿画：向井潤吉、「リップ・ヴァン・ウインクル」、著：ワシントン・アーヴィング、訳：松村達雄、挿画：向井潤吉、1962(昭和37)年、河出書房新社

73. 『岩波少年少女文学全集』5、「海底二万里」、著：ジュール・ガブリエル・ヴェルヌ、訳：石川湧、口絵・挿画：向井潤吉、1962(昭和37)年、岩波書店

74. 『岩波少年少女文学全集』4、著：チャールズ・ラム／メアリ・ラム、訳：野上弥生子、口絵・挿画：向井潤吉、1962(昭和37)年、岩波書店

75. 『岩波少年少女文学全集』3「シャーロック・ホームズの冒険」、著：アーサー・コナン・ドイル、訳：林克己、口絵・挿画：向井潤吉、1963(昭和38)年、岩波書店

76. 『悪名』、著：今東光、カバー原画：向井潤吉、1964(昭和39)年、新潮社

77. 『日本の文学』70、著：大岡昇平、「野火」口絵：向井潤吉、「俘虜記」、「野火」、挿画：向井潤吉、1965(昭和40)年、中央公論社

78. 『母の手鞠』、著：野田宇太郎、挿画：《柳河雨情》、《丹波の家》、《武蔵野の一隅》、《大内宿雨情》向井潤吉、1975(昭和50)年、新生社

新聞関係

79. 『朝日新聞』、「国境の民族」文：火野葦平、挿画：向井潤吉、1944(昭和19)年7月23日、朝日新聞大阪本社

80. 『朝日新聞』夕刊連載「体の中を風が吹く」切り抜き全122回、文：佐多稲子、挿画：向井潤吉、1955(昭和30)9月15日-1957年(昭和32)年1月20日、朝日新聞社

91. 向井良吉／向井潤吉宛 年賀状、1974(昭和49)年、個人蔵

92. 佐多稲子／向井潤吉宛 葉書、1974(昭和49)年、個人蔵

93. 小堀四郎／向井潤吉宛 年賀状、1974(昭和49)年、個人蔵

94. 古関裕而・金子／向井潤吉宛 年賀状、1974(昭和49)年、個人蔵

95. 難波田龍起／向井潤吉宛 年賀状、1974(昭和49)年、個人蔵

96. 佐多稲子／向井潤吉宛 礼状、1979(昭和54)年、個人蔵

97. 佐藤忠良／向井潤吉宛 礼状、1988(昭和63)年、個人蔵

印刷物

99. 向井潤吉西欧作品模写頒布会規(向井潤吉旧蔵)、1927(昭和2)年、個人蔵

100. 「向井潤吉氏 北支戦線従軍スケッチ展覧会」陳列目録、正宗得三郎「向井潤吉君 北支戦場の収穫」、1937(昭和12)年、高島屋発行

原稿

103. 向井良吉 原稿「亡兄の記」／「向井潤吉展 一心に残る絵筆の旅」展(朝日新聞社主催)図録 寄稿原稿、1997(平成9)年、個人蔵

104. 野尻抱影 原稿「ひとつの画額」／「向井潤吉民家展」(朝日新聞社主催)図録 1975(昭和50)年、個人蔵

写真パネル

106. ルーヴル美術館で模写に励む向井潤吉、1928(昭和3)年頃、個人蔵

107. 「向井潤吉 模写西欧名作展覧会」、日本橋・丸善にて、1930(昭和5)年、個人蔵

108. 向井潤吉、アトリエを兼ねた旧居宅 静枝夫人与長女・美芽さん、1934(昭和9)年頃、個人蔵

109. 自邸の庭で、藁を焚いて鯉のたたきをつくる向井家／左から向井、長女・美芽さん、静枝夫人、1950年代、個人蔵

その他

114. 向井潤吉 パスポート、1927(昭和2)年10月5日発行

115. 向井潤吉使用の鉄道切符(下関-モスクワ)、1927(昭和2)年10月28日発行

116. 「模写に就いての手記」(向井潤吉の自筆による模写制作にかかわる諸事項の記録)、1927(昭和2)年-1930(昭和5)年

117. 向井潤吉作「羅馬帯」、金箔、繻子など、1930(昭和5)年頃、個人蔵

118. 向井潤吉作「羅馬帯」、金箔、繻子など、1930(昭和5)年頃、世田谷美術館

98. 森繁久彌／向井潤吉夫人・静枝宛 礼状、1997(平成9)年、個人蔵

101. イムパール作戦要図(向井潤吉旧蔵)、発行年不詳、発行者不詳 個人蔵

102. 第20回行動展「群歌 ここは上野の行動展」、作詞:古老軒(向井潤吉)、1965(昭和40)年、行動美術協会発行

105. 野尻抱影 不詳／寄稿先など不明、年代不詳、個人蔵

110. 長女とルーヴル美術館を再訪し、かつて模写に取り組んだグレコなどの作品の前で、1959(昭和34)年、個人蔵

111. たいめいけん(日本橋)初代主人・茂出木心護氏の帰国送別会(パリにて)／写真一番左が茂出木心護氏、一番右に向井潤吉、1959(昭和34)年、個人蔵

112. 火野葦平とともに／奥に向井潤吉、撮影場所、年代不詳、個人蔵

119. 向井潤吉旧蔵『民家図集』、緑草会編、大塚工芸社発行、1930(昭和5)年から1931(昭和6)年にかけて発行

120. 行動美術協会第9回展記念手ぬぐい、1954(昭和29)年、個人蔵

121. 「制作日誌」(向井潤吉の自筆による屋外制作作品1074点に関する記録)、記載期間:1961(昭和36)年-1988(昭和63)年

113. 向井潤吉と実弟・向井良吉(向井潤吉旧蔵)、年代不詳、個人蔵